

科学の中のファッション バイオテク・バスに乗り遅れるな？

いかに片仮名全盛のご時世とは言え、毎日の様に、ハイテクやらバイオテクなどの文字が、新聞紙面を飾るというのは、不安なものである。

筆者が高校生であった昭和15年ごろ、‘バスに乗り遅れるな’という流行語が紙面を飾り、国民を励まして日本人の集団志向をあおりたてていた。自らの判断し得ない事柄について、衆の赴くところに従うというのは、生活の知恵でもあるから、‘隣百姓’を一概に責めるわけにはいかないが、知っていながらおかしいバスに乗るのは、時には愚かであり、そのような風潮に便乗して利を謀る者が、時には国をも誤ることは、改めて申すまでもない前例がある。

ファッションと言うものは、一つのムードであるから、常に不確定性を持っている。冷静な判断力を持ち、批判を怠らないという精神とは、しばしば裏腹のものであるが、社会現象としてのそれは、やがて大衆と言う波の中に呑みこまれて、実害を持たないものになることが多い。しかしながら、これが科学技術の世界と言うことになる、悠長に構えてもいられない。

この貴重な未来を持つ、バイオテクの世界を、ファッションにしてはならない。生物の中で、これ以上無いと言われる程研究されている‘大腸菌’での成果や、その産業的取扱いが、それに比べれば、何もわかっていないと言ってもよい高等植物でも、すぐに可能であるかの様に、世を誤らしてはならない。バイオテクの技術を利用して、すぐにでも作物の品種を改良し、‘種子で世界を制し得る’などと、人様を欺いてはならない。自然科学の世界を、ファッションにしてはならない、と主張することは、保守・愚鈍

目 次 (第18巻第8号)

千葉県におけるマルチ栽培について……2

＜千葉県農林部専技 竹内栄次郎＞

は じ め に……………2

1. 千葉県のマルチ栽培の利用状

況……………2

2. 落花生のマルチ栽培……………3

3. カンショのマルチ栽培……………6

4. バレイショのマルチ栽培……………8

5. サトイモのマルチ栽培……………8

ま と め……………8

転換畑麦作におけるカラスムギの発生実態——埼玉県大宮市見沼の事例

から——……………9

＜埼玉県農林部主席専技 真中多喜夫＞

＜桶川農業改良普及所 磯輝雄・菅間昌弘＞

1. は じ め に……………9

2. 転換畑麦作とカラスムギの発

生経過……………10

3. 昭和59年春季における発生実

態……………11

4. 考 察……………13

5. お わ り に……………14

世界の農耕地雑草とその調査研究(5)……14

＜宇都宮大学 竹松哲夫・一前宣正＞

であろうか？ バスは、正しい路線を走らせねばならない。

〔社団法人 日本施設園芸協会会長 西 貞夫〕
財団法人 日本植物調節剤研究協会理事